

編集後記

岷江派遣委員長

事故調査委員長 小野 龍 彌

関大100年、探検部30周年の様々な計画が立案されては消えていった。その中で計画当初のメンバーが卒業で変わりながらも、丸3年を掛けて岷江が実現したのは、私達の大陸への憧れと、当時はまだ誰も中国の川を下っていなかったことが原動力であった。その3年間に揚子江と黄河の源流部が中国隊によって下られたが、岷江は四川省のパンダの里を源流として、我々の夢を誘いつづけた。

この計画の出発が予定通り7月であったなら、私もせめて伴走隊員として同行の予定であったが、岷江の招請が1ヶ月以上早くなり私の中国における仕事と重なってしまった、そして帰国3日目に事故は起こった。急遽、故村上君の叔父の川上さんと安川探検委員長が現地に出発し、連日遭難対策本部で定時交信を聞く日夜であったが、我々は村上君の生存を固く信じ、正に搜索隊を派遣する直前に遺体確認という最悪の報がもたらされた。そのとき私は、「これからは未経験の世界や」と心身共に緊張していた。

遭難より遺体発見までの5日間は、我々にとって悪夢の日夜であったが、村上君のおばあさんを始めとするご家族や、隊員達の不安と必至の思いは如何ばかりであったろうか。それにつけても忘れられないのは、叔父の辻さんご夫妻が大学へ甥がご迷惑を掛けたと来られたことや、村上君の遺骨と共に金沢のお宅へ着いたとき、皆さんが哀しみを押し隠して温かく迎えて戴いたこと、そしてある隊員のお父さんには村上君の生死が確認されるまで、私の息子を中国での搜索に残して欲しいと申し出ていただいたこと、また多くのOBから搜索隊への参加の申し出があり人選に困ったこと等、人々の心の厳しい美しさに出会ったことであった。

さて、この報告書を読んでいただいた時、余りにも報告が素っ気なく且つ事故原因の追求が甘いのご叱責を買うかもしれない。しかし敢えて私達は事故に至る経過とその周辺の記録を充実することに重点をおいた。

自然を相手に極限に挑むとき、その場に居合わせなかった我々が事故原因を追求してみても、それは推測の域を出ることはない。勿論我々は部内においてあらゆる討論を重ねてきた。「岷江にあのゴムボートは小さすぎた、もっと川を研究してゆくべきだ、ゴムボートは川でひっくりかえってはいけない、探検部が不活性化してきた」、等々もっともな意見はたくさんあった。しかし隊員達の報告を詳細に聞くと共に、保津川でゴムボートの性能比較等もやってみたが、我々はこれが主たる原因であると確信できるものはなかったとご報告する以外にない。

あるのはただ、隊員達の周到な準備と果敢な勇気をもってしても、避けがたく事故は起こり得るという空しい思いである。こんな言い方を村上君は許してくれるかどうか私には判らないけれども……。ともあれ我々は30年目にして初めての死者を出してしまった。これは原因がどうあれ、我々探検部の責任であることを忘れてはならない。

「村上よ、お前の死を無駄にせえへん探検を今から始めるぞ！」

合掌

末筆ではございますが、今回の遭難事故に際して、格別のお力添えを賜りました、村上家御一同、中国の各方面の方々、日本及び在中国の外務関係、多くの大学探検部、関西大学、等々大勢の皆様に、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

中国朋友们:

我们对岷江航行活动向贵方表示衷心的感谢。我们对活动之中的事故觉得遗憾，并且对给贵方添了很多麻烦表示歉意。

我们不能忘记这次贵方的照顾和协作，不久的将来作好准备而一定再一次访问中国。

我们决心，为了中日两国的友谊的发展，作努力。

祝各位先生们的身体健康和工作顺利。谢谢。